

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-4



平野 武宏

FWAホームページの「Y R・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク（国内版）沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック 2020の聖火コース（仮想）1685 kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120 km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は7~8 km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。リハビリの散歩の距離を累計しバーチャルコースのゴールに向かう、「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ、前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は駕籠に乗って（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れた通過の県の思い出や映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

このバーチャルウォークの提唱者の八柳修之さんは一緒に聖火を運んでいるようですが、FWAのスタッフ仲間が故郷 鹿児島県からスタートし、東京までのマイ バーチャルウォークコース（2278 km）をつくり、12月から始めたとの、仲間が増えた、うれしい話がありました。寅次郎の10歳年上ですが、「いつまでもウォーキング」を実践の大牟田宏さんです。他にもバーチャルウォークを楽しんでいる方がいればお知らせください。途中でくじけそうになった時の心強い仲間ですので・・2018年10月1日沖縄県最北端の辺戸岬を出発した聖火は沖縄本島を縦断、那覇市に到着後、10月28日鹿児島県鹿児島市に入り、鹿児島市内から始まる国道10号線を進み、国分市から11月20日宮崎県都城市に入り、宮崎市から海岸線を北上、12月22日スタートから300 kmの

地点（日向市の手前）に到着しました。

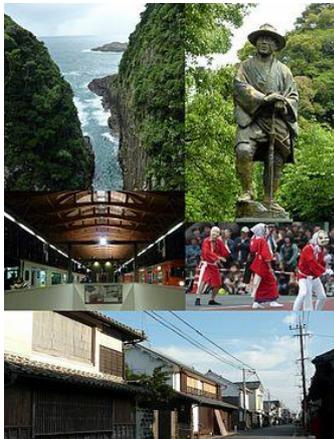
次は宮崎県の日向市から延岡市まで、長い海岸線を歩くコースです。

[宮崎県日向市～宮崎県延岡市] 301 Km～400 Km



写真上左は日向灘、右は延岡市の工業地帯（旭化成の創業の地）の夜景です。

残念ながら寅次郎も映画の寅さんも宮崎県の国道10号線を歩いたことはありません。日向市と延岡市に縁が深い方はいないかと調べたら、1885年（明治18年）宮崎県東臼杵郡東郷（現在の日向市）の医師の家に生まれ、延岡の小学校・中学校で学んだ歌人 若山牧水がいました。中学生時代の15歳から短歌を始め、18歳で牧水を名乗ります。牧は母親の名、水は生家の周りの溪や雨からきたとのこと。



その後は上京し、早稲田大学文学部に入学、北原白秋や中林蘇水と親交があったとのこと。

写真左は日向灘馬ヶ背・若山牧水像と日向ひよっこ踊り・日向市駅・美々津の町並み（日向市南部地域）の日向市の観光合成写真です。

寅次郎、小学校での勉強の内容は忘れていますが、4年生～6年生の担任の女先生に教わったと思われる若山牧水の名と代表的な短歌二首を覚えていました。

「幾山河 こえさりゆかば さびしさの はてなむ国ぞ けふも旅ゆく」
「白鳥は かなしからずや 空の青 海をあをにも 染まずただよふ」

「旅は満たされぬ思いが消えることはない、真の安らぎや幸福には出逢わない、旅は孤独のものだ」と、いずれも旅の寂しさや哀しさを詠っているようですが、旅を愛し、自然を愛し、酒を愛し、人々と語り合い、各地で歌を詠んだ若山牧水はウォーキングの大先輩でした。

2018年11月の朝日新聞に歌人 俵万智の評伝「牧水の恋」出版の記事を見つけました。

「幾山河・・・」は「漂泊の旅愁がにじむ代表作ですが、実はある女性の故郷を訪ねる途中で詠んだ恋の歌。この歌に限らず、牧水と聞いて思い浮かぶ、ほとんどが一人の女性との恋愛から生まれたものです」と俵万智は言っています。

その女性は牧水が早稲田大学の学生だった時に友人が親の反対で失恋、親への説得で神戸に乗り込み、偶然に知り合った年上の美しい女性で、子のある人妻とは知らずに、のぼせ上がる牧水は上京した彼女と愛欲の深みへとはまりこんでいったとのこと。この試練の恋の終わりを迎えるまで多くの歌を詠んでいます。俵万智は失恋の歌に共感、牧水を短歌の水先案内人と敬愛、2016年には牧水の故郷 宮崎県に移住、研究を重ねているそうです。

日本ウォーキング協会では全国展開のウォーキング イベントを開催しています。2006年12月「牧水青春ウォーク」を開催し、宮崎県大会をスタートに2007年11月まで20大会、牧水ゆかりの全国20ヶ所を歩いています。寅次郎は参加出来ませんでした。宮崎県出身の医師で、旅を愛し、お酒も愛した若山牧水のような弓削玄雄さん(元FWA会員)が17大会に参加、牧水の足跡を巡った紀行文を執筆、読ませていただきました。

その中で、この大会は牧水の生誕や没後100年ではなく、私が記憶していた代表的な二首(前述)が詠まれて100年目の企画だと知りました。味のあるウォークの企画ですね。

酒好きな牧水は1日1升(朝2合、昼2合、夜6合が適量)の酒を飲み、肝硬変で43歳の若さで亡くなりましたが、夏の暑い時期にもかかわらず、死後の腐臭がしないのはアルコール漬けになっていたのだと医師を驚かした逸話があるそうです。

又、牧水終焉の地となった静岡県の千本松原(写真右)を愛し、その保存運動に取り組み、この自然が後世に残されたとの記録があります。そういえば小学校の遠足でこの地を訪れていた寅次郎でした。女先生がその時に牧水について教えてくれたのではと今、思いますが、女先生は故人なので確認しようがありません。



400Km地点(大分市)に到着したら、次の大分県のコースを紹介します。
途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

この旅の途中で 2018 年（平成最後の年）の年越しとなります。
皆様、良いお年をお迎えください。

今回は 官公庁の食堂めぐり-5 都庁 です。

平野 寅次郎 拝